

ORIENTEERING JAPAN

O JAPAN

シンキングスポーツ・オリエンテーリング

'92/12

1992年〔平成4年〕12月10日発行
(毎月1回10日発行)

第9巻第12号 通巻第113号

昭和63年6月24日第三種郵便物認可



植物性

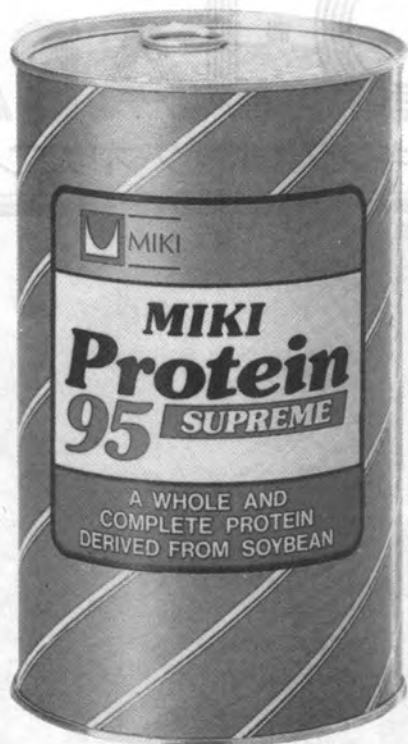
- 持久力・体力……健康の維持
- ノンコレステロールです

プロテイン95

- 皮膚・毛・目・爪・筋肉組織・分泌腺・血・
- ホルモン等すべてプロテインで出来ている

レシチン

- 脳神経系統内分泌腺及び心筋成分
- コレステロール分解



● お問合わせはO・J・A・P・A・N編集部まで

オリエンテーリング地図印刷

社内報 団体・サークルの機関紙 記念誌
PR誌 学校新聞 句集 歌集 詩集

あしび印刷 有限会社

〒220 横浜市西区西戸部町3-298
神奈川県教育会館前
☎045-231-5970 (代)

ORIENTEERING JAPAN

○ JAPAN もくじ

92 / 12月号・No.113

- '92 ワールドカップ最終結果
編集部.....4
- アリスタ・ランデルスに聞く
村越 真5
- =イベント・レポート=
岡本 忠佳, 福田 良雄,
財間 定義, 山口 敏夫,
小野 盛光, 山口 肇
- 「第5回本曾馬籠大会」
- 「第3回広島マッパ-MoMo大会」
- 「'92 秋の松江大会」
- 「平成4年度(第18回)東日本大会」
- 「第13回広島大学大会」
- 「向原町 兼 広島県大会」
- 「平成4年度富山県
兼 富山OLK 大会」
- 「第20回愛知大学主催大会」
- 「平成4年度鹿沼大会」6-9
- =投稿=
「久松台小学校PTAの集い」
堀江 康博.....10
- =O-FORUM=
“東日本大会の速報について”
“「行」と「様」”
“OLの普及”
“今、OLは停滞期”
“ぜいたくな願望”
“公認大会の参加資格”11-13
山崎 正治, 吉良 清一,
窪田 宏明, 大町 宏志,
中村 威, [天邪鬼],
大井 和之
- 「幼稚園の授業に“オリエンテリング”」
三好 正夫.....13
- パーマネントコースりぼ〜と
窪田 宏明, 木佐木輝雄,
水野 博司14-15
- “情報あれこれ” “連絡協だより”16

【今月の表紙】

12月6日「鹿沼OL大会」
北関東の初冬の落葉の林を走る
萩田育徳(おたけのり)さん=埼玉
小川大会の作図担当。

【今月の地図】今号も休ませていた
できます。

ストリーマー

不況の年の瀬……

何か月前に書かせていただいたと思うが、やはり学生の(希望職種または企業・団体への)就職難の時代がやってきたようである。不況も大鍋の底にいるような感じで、なかなかはい上がれない。企業は減益・赤字となり、流行語ともなりつつあるリストラ(Restructuring)のひとつの柱となる合理化が行なわれる。賃金やボーナス・カットはあるが、減税は無い。

『就職活動とは、まさにバトルであるっ！本音と本音のぶつかり合い、内定という言葉の裏でのかけ引き。'どこか入れるやろ……' 'どこでもエエわ' などと言っていると、取り残されてしまうのである。ばくも就職活動中の2ヵ月で、25社はまわった。リクルートスーツに身をつつみ、大阪のイバラキから三ノ宮まで、アチコチ訪問しまくった。しかし、内定をもらったのはたった1社だけ……これだけでも今年の就職活動のすさまじさがわかってもらえるであろうか。ちなみに千大の女子はまだほとんど決まっていない。今の日本企業の求人、口先だけの能力ややる気ではなく、コネや学校とのつながりを重視すること。今年はこの傾向が最も強かったが、飛び込みで会社訪問をしてもなかなか面接までもっていけない。一流大学出身か、先生の口添えがまず要るのである。』

以上は、神戸須磨オリエンテリングクラブの機関紙「田野横断」(1992 Dec. No. 12)に載せられていた文であるが、地方大学の学生さんの就職状況や考え方がわかるので転載させていただいた。今月号のO-FORUMに投稿していただいた中村威さんの一文の後略部分でもボーナス・カットのことにふれられており、寒くきびしい不況の年末が感じられる。オリエンテリングの伸び悩みと関係するかも知れない。

この時期、高い参加料と運賃を払って、遠方の大会にまで足を運ぼうとする人は少ないはずである。それもたった一日の、しかも1時間ほどを走り、である。いつも言うように、単日の全国規模の大会を早く止めて、一定規模の(見直しを行なったうえで)の各大会統一されたクラス分けの)ブロック大会や県民大会を増やし、「全日本大会」の複数日化と「都道府県対抗リレー大会」の全日本大会との併設を実施に移すべきである。OLのための大旅行は年1回で充分。JOAの皆さんのお考えは如何？

流人



'92 ワールドカップ 最終結果

優勝は 男子ノヨアキム・インゲルソン

女子ノマリタ・スコグム

本年度のワールドカップ最終戦シリーズは、去る10月3日にカナダのオンタリオ州で、更に10日にはアメリカのニューハンプシャー州で開催された。

最終成績は、男女ともそれまでのヨーロッパでの各レースの結果、それぞれのトップにいたヨアキム・インゲルソンとマリタ・スコグムの両スウェーデン選手が得点を重ね優勝した。マリタは1989年のスウェーデンにおける世界選手権で優勝している。他に目立ったところでは、男子はノルウェーのベテル・トーレセンがこの2大会で3位・2位の好成績で、それまでの12位から3位に食い込みスウェーデン城の一角を崩した。惜しくも最終的に4位に終わったが、やはりこのシリーズで優勝と3位という成績を残したデンマークのアラン・モーゲンセンのがんばりも見逃せない。そして、全レースに参加し好結果の5レース合計で111点も稼いだニュージーランドのアリスター・ランデルスはヨーロッパの強豪にまじり

17位と善戦した(村越氏のインタビュー参照)。女子では、91年チェコでの世界選手権ショート・ディスタンス優勝の同国ヤナ・シャスラローバが最終レース3位の結果がものをいい、それまで2位にいたイギリスのイヴェット・ハーグを抜き2位に上がった。ヨーロッパ以外の選手では、それまでの全レースに参加、最終シリーズは運営クラブの一員のため競技参加ができなかったアメリカのクリスティン・フェデラーの全得点11点が目立つ程度。ヨーロッパの壁は厚い。

[以上は本誌 92/9 で「吹くか、スウェーデンの強風?」を訳した編集部が、「ORIENTEERING WORLD」=IOF誌、「COMPASS SPORT」=イリュ誌、「ORIENTEERING NORTH AMERICA」=米・加誌から抜粋して脚色したものである。以下は、「O N A」誌の編集者サラ・バーマンが「ORIENTEERING WORLD」誌に投稿リポートしている中から、特に最終レース(アメリカ)の様子の部分を抄訳して見たものである。]



サラ・マエ・バーマンさん

第7レースで見せ始めた林の秋色は、ニューハンプシャーでは頂点に達した。まさにゴージャス。もえるような赤、ダーク・レッド。グリーン、オレンジ、黄のほかの木々との取り合わせはネオンの輝きのような。われわれアメリカ北東部の人間はこの秋の輝くような装飾には慣れているが、この週末のこの色づきはあっと言わせるものがあった。土曜の朝の霧や霧雨でさえも、この公園に通ずる全ての道に沿った燃えるような色を消すことはできなかった。それは、IOF会長のハインツ・チューディン氏をして後に、これまでで「技術的に最も挑戦的」と言わしめたワールドカップ・イベントの前奏曲であった。彼は大会後の最後の宴の席で、最高に上質な技術を要する世界選手権を開催するアメリカの能力については、このワールドカップ第8レースの技術的優秀さで、どのような疑いも払拭されたと宣言した。

カナダではワールドカップのレースは、朝早いスタートで前に、そして一般のレースは後に行なわれた。これに対しアメリカでは一般レースのスタートが8時という早さで、ワールドカップ・レース出場者のスタートを10:45に始めた。最初のワールドカップ走者がやってくる頃にまたゴールしていない一般レーサーはほんの僅かであった。しかも異なった進入方向で、邪魔にならないようにゴール・レーンも別に離された。しかし、自身でこの林特有の難しさを味わった後、一般の人は世界のエリート達がランキング・アップのための最後の無上のがんばりでゴールに突進してくるのを興奮しながら歓声をあげていたのである。

[From "Orienteering World" 92 3/4]

＝編集部



INTERNATIONAL ORIENTEERING FEDERATION
INTERNATIONALE ORIENTIERUNGSLAUF FEDERATION



★ IOF から本誌あてのクリスマス・カード ★

Merry Christmas

Happy New Year

Heinz Tschudin
IOF PRESIDENT

Annaliese Beutler-Pechman
IOF SECRETARIAT

(1942)

President: Heinz Tschudin, Pfadbruggstrasse 21, CH-4304 Wettstein, Switzerland ■ (41) 1278 6020 (office)
Secretary General: Lemari Lavin, Box 76, 5-191 21 Sollenluna, Gärden ■ (48) 6-38 34 85, Teletax (48) 6-35 71 68
Bank account: Nordbanken 2089-77-00382
Postal giro account: 9 42 63 1

アリスタ・ランデルスに聞く

村越 真

私が初めてアリスタに会ったのは、1987年の8月、スイスのディーター・ウルフのもとで1週間の合宿に参加した時のことだった。この時ディーターはニュージーランド・チームのコーチとして合宿を取り仕切っていたが、選手としてその合宿に参加していたのが、18歳のアリスタであった。当時の記録を見返してみると、彼は当時からニュージーランドのエースだったが、個人戦の結果は47位。平凡な非ヨーロッパ諸国のエースである。

それから5年、彼は環太平洋のエースどころか、北欧の選手にも引けをとらない一流のエリートとなった。5月に開催されたAPOCで、個人戦、ショートとも安定した力を見せ優勝した。今年のワールドカップでは、最高位で2位。また総合でも一時は10位にとどまるなど、ヨーロッパ以外の選手としては（いや北欧の選手を含めても）大活躍を見せた。また夏の学生選手権では6位になっている。その活躍の秘密は？ 今、彼は何を考えてオリエンテーリングに励んでいるのか？

アメリカのワールドカップで、アリスタにインタビューをして見た。

—今年の君は全くすばらしい成績だが、君自身の感想を聞かせてほしい。

「昨年の世界選手権では、順位は30位だったが2位との時間差は10分で、ミスもしているから、努力すれば20位くらいにはなれるという見通しは持っていた。だが、実のところ、こんなに良い結果がでるとは予想もしていなかった。4月にオーストラリアで参加したイースターの大会、日本でのAPOCでよい感触を掴んだことは確かだ。春のシーズンが終わっても、なぜそれほど結果が良かったのか自分でもわからない。冬に特別な練習をした訳でもない。春先だったので、ヨーロッパの選手がまだ本調子でなかったことも影響しているのかもしれない。なぜ成功したのかは、いまでもわからない。他の人との違いにも思い当たらない。運がよかったのか、才能があったのか・・・」

—普段どんな練習をしているのか？

「普段というのは難しい。91年の世界選手権を目指していた頃は、多分こんな内容の練習をしていたと思う。もちろんこれはもっとも激しい週で、5月から8月の間に何回かこういう週があったと記憶している。筋トレなどはあまりしない。僕は怠け者だから。」

日：2時間～2時間30分のジョグ
(LSD=注1=よりは速めに)

月：50分のジョグ

火：ファルトレク=注2=かインターバル=注3=

水：LSD

木：ファルトレクかインターバル

金：50分のジョグ

土：レースやタイムトライアル、あるいは山での練習

その他に週4日くらい、朝30分程度のジョグ

—かなり質の高い練習のようだが、長距離の記録はどのくらい？

「5000mが14分37秒、1万mが30分24秒だ。18歳のころはすでに5000mは14分42秒だったから、それから5秒しかよくなっていない。その当時から、ナビゲーターというよりむしろランナー=注4=だったと思う。」

—今年はいよいよオリエンテーリングに集中しているようだが、今後の見通しは？

「そのとおり、春のシーズンからずっとヨーロッパに滞在している。このワールドカップの後、イギリスに渡って、来年の春までいるつもりだ。その後のことはよくわからない。確かに今年はいよいよオリエンテーリングに集中すると決め、そうしてきたが、この先のことはわからない。仕事も探さなければならぬし。」

—日本のオリエンティアは、君の活躍を身近に感じていると思う。日本の若いオリエンティアに一言

「誰でも、多くの練習や経験を積む時期がある。若い時期に多くの経験を積むことは重要だと思う。僕の場合は87年に世界選手権に遠征した時、4ヶ月ヨーロッパにいた。だが経験から何かを引き出すには、オリエンテーリングの場合時間が必要だ。だから忍耐強くなることだと思う。」

89年も91年も彼は私と同様、世界選手権のリレーで1走を走っていた。89年は後半で彼に会い、ほぼ同時にゴールした。彼が13位、私が15位だったと記憶している。91年、彼はトップから2分と快走し7位になっている。彼が大きく成長したのはここ2年ほどのことなのだ。90年のワールドカップ最終戦で21位となり15点をとった時、「点がとれたね」と話しかけたら、「秋のシリーズには出ないから関係ないよ」と語っていたのが今も記憶に残っている。その時は「興味がないのかな？」と思っていたが、彼の野心は実はずっと上の方を狙っていたのかもしれない。

こうやって急激にトップに躍り出た選手は、あっさり引退しがちである。インタビューにも、そういう淡泊さがのぞいて見える。今年の世界選手権では最終的な成績は17位であった。その結果を引っ提げて、来年は世界選手権で活躍してくれるのか？ それとも、あっさり引退してしまうのか？ 興味深い。

□

(注1) LSD：ロング・スロー・ディスタンスの略。長い距離を、ゆっくりしたスピードで走る。

(注2) ファルトレク：北欧の選手が始めた練習法。起伏のある山野をスピードに変化をつけながら走る。アリスタの場合、構造化されたファルトレクで3分あるいは5分のスピード走のあと、3分あるいは5分のジョグをくり返すものを行なう。

(注3) インターバル：最大スピードの80%くらいの負荷の速さでの走り、ゆっくりしたジョグを繰り返す。アリスタの場合、400mを66秒から68秒で走り、それを20回繰り返す。もっとも激しい時は、400mを60～62秒で12回。

(注4) 技術的に優れているというよりは、走力に優れているという意味。

□

第5回木曾馬籠 オリエンテーリング大会

●1992年10月25日
●長野県木曾郡山口村

「秋の木曾路で一日のんびり遊んでみませんか」のキャッチフレーズをもとに、「ふるさと馬籠ごへー祭り」が開催された。

会場は「まごめ自然休養村センター」で、オリエンテーリング、フォトコンテスト、ジャズ、ポップショー、大ビンゴゲーム、時代絵巻パレード等が実施され、朝早くからたくさんの人達が見物に来ていた。

五平餅も4500本準備されたそうで、オリエンテーリング終了後に急いで買いに出かけたが、全部売切れで残念な思いをしました。

旧中山道・木曾路にある馬籠宿は、バス停から陣馬まで約600メートル。急な坂道の西側に石垣を築いて、民宿や土産物屋などが並んでいる。小雨模様であったが、全国各地からの観光バスが到着し、老若男女が散策を楽しんでいました。

宿泊した湊屋にオリエンテーリングに参加された日商岩井のみなさんがおられた。リーダーの山下さんの陣頭指揮で5年連続出場、御苦労様でした。

三重県伊勢市 岡本 忠佳

✓ 添いの必要な表彰式で知られる本大会の人気は回を追う度に上昇中。今年も大変でした。

テラインこそ毎回同じ範囲ですが、回を追う度に修正が加わり、印刷し直してあるため精度もますますですが、点在する耕作地が牧場であり、大型機械の走り回る度に道が変り畑が変るといふ大変な地でもあります。

広島、庄原駅より特発バスも走り、特にトリムの参加が目立ち、子供達の歓声が会場の雰囲気盛り上げていました。

コースセットも同じテラインを3回目の使用であり、苦労が見られましたが、全体的に道走りのランニングコース。約1時間のコースに秋の高原の清涼な空気を満喫しました。

OLC吉備路 福田 良雄



第3回 広島ラプリーMoMo オリエンテーリング大会

●1992年11月3日
●広島県木庄原市

「気分は北海道的」。広島の地にありながら北海道よりも北海道的と言われるほど牧歌的。赤いサイロにポプラ並木がよく似合う「七塚原」の地を会場に、第3回広島ラプリーMoMoオリエンテーリング大会が開催されました。

この地は、明治33年に日本初の国立種牛牧場が創設された地で、今は広島県立畜産試験場と改められ、県立大学と共に中心となっています。また隣接地には、中国地方で唯一の国営備北丘陵公園「比婆さとやま公園」が平成6年の開園を目指して建設中で、OL不毛の西日本にあって、イバラの少ないめずらしい植生の良いテラインを有しています。

庄原ダイコン、広島菜漬、新米コシヒカリ、リンゴ・etc. これでもかこれでもかの景品で知られ、1位には付

92' 秋の松江 オリエンテーリング大会

●1992年11月3日
●島根県松江市

【日寺】主管の松江OC創立以来、恒例の行事で秋季は通算・21回目。松江体協+社会保険機構も共催して、「第4回いきいき健康しまねオリエンテーリング大会」の呼称としては第4回目。

【戸斤】春は古江、秋は風土記の丘も、近年の恒例。古代創建の古墳・神魂神社・国行や国分寺跡などが近所に集中する名所。

【人】毎回、市教育委員会のボックスを通じて、市立校全部にチラシが流される（うち、全小学校は全児童に）、大量の宣伝が恒例。呼応して、数百人、ときには千人を超えることも！今回は、好天ながら、267人の参加に留まったのは残念（来春の全日本大会の会場最寄り都市=県都であることを思えば、尚更）。

島根OC 財間 定義

平成4年度(第18回) 東日本 オリエンテーリング大会

●1992年11月8日
●茨城県笠間市

《日寺》本年度初めての“ビッグ3”大会。主管は、設立から20周年という茨城県オリエンテーリング協会。幸い好天に恵まれました。

《戸斤》この笠間は、日本三大稲荷の門前町・赤穂浪士で有名な浅野藩(赤穂に移封後は、牧野藩)の城下町。笠間小学校付近は、当時の武家屋敷であったようで、今も往時の“いちょう”の大木や、背後にそびえる城山(その一帯は、県立自然公園でオリエンテーリングのパーマネントコース)も在った。

注:東京OLクラブのY氏の述懐に拠ると、後半のコントロール“258(湿地のふち)”“265(小凹地)”などは、以前の大会で使われたコントロールと同一であったという(したがって今回はコースプラン段階に手抜きありですネ)。

《人》スタッフキ200人。15年前に全日本大会、8年前に朝日大会を経験済みと言うが、今回の運営では、特に“ゴールラッシュ”に入ってから、計算センターの捌きが極度に遅滞。記録掲示が2時間も待たされるという事態に「遅過ぎる!」と、不満の声が聞かれた。

島根OC 財間 定義



第13回 広島大学 オリエンテーリング大会

●1992年11月22日
●広島県湯来町

《日寺》勤労感謝の日につながる貴重な“連休”の初日。中四九地区ランキング対象大会として、初めての“2連戦”の初日でもあった。幸い、好天に恵まれました。

《戸斤》東の“第14回千葉大会”と並んで同日開催の西の“広島大会”。政令指定都市「広島」に隣接した佐伯郡湯来町は、2年前に今回のテライン近接地で、広島大Oが開かれたゆかりの地。今回は、今まで以上に白い、ニューテラインと喧伝された通り、マップの60%余が走行可能!

《人》スウェーデン滞在体験から生まれた“朱雀OK”の創立提唱者(中村弘太郎さん)が、コース・コントローラー。競技統括責任者(広大3回生の内海はやとさん)が最良のコースプラン。運営統括は、尾川正洋さん(広大3回生)で、学連+一般オリエンティアに積極周旋なPRが効いて、過去最高に近い多数の参加を得ることに成功。

7人チームによる対抗戦も併催。これには、最大規模・7チームの参加。この優勝は、近畿学生OBによる「第15回インカレ実行委員会」。準優勝は広島OLCであったが、第3位には遠来の名大OLCが入った。

競技参加者数キ205人。

島根OC 財間 定義

向原町オリエンテーリング 兼 広島県オリエンテーリング 大会

●1992年11月23日
●広島県向原町

《日寺》勤労感謝の日、昨日に続く“広島県協会がらみ2連戦”の一環。この日も好天に恵まれた。

《戸斤》この地(広島市隣接の高田郡向原町)は、今大会の提案者・広島OLC副会長の太田尊司さんの勤務校所在地。1/15,000・B5版に収まった“テライン”は、太田さん自らがハント&作図者。等高線は密で、走行可能は15%程度(近畿から訪れたオリエンティアから“エグイ”とのささやきも仄聞)。

《人》広島大在学中にオリエンテーリング活動を始められた“太田さん”が、自らのオリエンテーリング歴10周年を記念しての事業が、今回仲間の方々の支援を得られて実現したもの。この意味で、この地方では空前の壮挙!

地図調査など強力な支援者・山本 浩さんが先月末、自転車通勤の途上、自動車事故で遭難、逝去された。為に、故人の追悼が行なわれた。

島根OC 財間 定義



<向原町 兼 広島県大会 続き>

「参加頂くことが何よりの供養になります」

大会案内にこのように記されたのを見たのは初めてではないだろうか。去る10月28日の朝、出勤途上で不慮の交通事故に遭い急死した山本浩クラブ員が、本大会の調査・作図の中心であったことから、広島OLCでは本大会を追悼大会とすることになった。

22日の広島大学大会と併せて2日間大会となったため、学連加盟の大学生が、前日の広島大学大会のみで引き揚げ事前申込みが個人70名と少なかったため、急遽、関西以西の主だったクラブに呼びかけ参加要請を行なった。

本部には山本浩君の写真が広島OLCの旗と共に飾られ、OLP兵庫、OLC吉備路、福山OLC、ふれあい淡路山口県選手団有志等から寄せられた花が供えられ、役員全員が黒のリボンを着用、在りし日の彼をしのび、冥福を祈った。会場には彼の母親と姉さんも来訪、彼の調査をしたテラインをクラブ員の案内で見学された。



故・山本 浩君の写真を囲んで各クラス上位入賞者

大会のテラインは広島市に隣接する向原町南部の山中で、峠を越したところへは住宅分譲地の旗がそこかしこに見られるといった地域。斜面は多少急ではあるが、コースの組み方で、あまり意識せずに走れ、まあまあ通行可能程度であり、十分OLを楽しめるコースであった。しいて言

えば、特徴物が多く、また色彩が濃くて山中では見づらいマップだったと思われる。縮尺を1/15,000より大きくして、見やすくしてもらえれば、より分かりやすかったのではないだろうか。

OLC吉備路

福田 良雄



コンパスと地図を手にスタートする参加者

平成4年度 富山県 オリエンテーリング大会 兼 第3回 富山OLK大会

●1992年11月22日

●富山県小矢部市

今大会は、2年前と同じゲレンデ「蟹谷」を使用しました。会場は、北陸自動車道「小矢部」ICから車で2分と便利な所であったことから、ほとんどの人が車を利用されたようでした。

大会当日は、快晴で暖かく、遠くに雪に覆われた立山連峰を望むことができ、絶好のOL日和となりました。全国各地でOL大会が開催されているなか、北信越・東海地区を中心に、個人・トリムを合わせて約140名の方が参加されました。

2年前と同じ地図(0-JAPAN 91/1 [今月の地図] 参照)を使用しましたが、コースを組み替えることにより、新鮮な感覚で皆さんOLを満喫できたものと思います。今回の特徴としては、参加者にゼッケンをつけてもらい、中間ポストおよびラスト・ポスト付近で計時を行ない、大会本部へリアルタイムに連絡をするという方式を採用しましたが、トランシーバーの調子が悪く、十分な成果をあげることができませんでした。

なお、今回、富山大OLCの皆さんには、当日の運営はもとより、試走、コース記入のほか、数々のご協力をいただき感謝いたしております。

運営責任者 富山OLK・山口 敏夫

小矢部 富山県オリエンテーリング大会

コンパス手に野山駆け

オリエンテーリングは、林や野原の中を地図とコンパスを手掛かりに、コースのポイント間のルートを素早く判断し、タイムを競う。東信越の林の中からスタートし、山の斜面やあぜ道など各参加者が一番近いと思ったルートを選び、さわやかな汗をかいた。

(個人)部▽H A O二
宮原生(不出津)▽H A S
▽新家秀男(中京O C)▽
H B O松林福(富山OLC)
O B V D A O 佐藤明子(金
大O L C)▽D A S O 古辰
久美(つるまOLC)▽
D B O 大沢裕子(同)▽N

①大沢雄雄(福野町)
②(徒歩の部)▽一般の小
賀良成・小林寛多(新島)
▽小学生の山中梨絵(小矢
部市)

「11月23日付

「北日本新聞」より」

第20回 愛知大学主催 オリエンテーリング大会

●1992年12月6日

●愛知県南設楽郡作手村

愛知大学がクラブ設立20周年を記念して開いたこの大会は、例年の岡崎市東部の本宿周辺から離れて、「鬼久保」「巴山」でトレイルの良さが評判の作手村に会場を移しての開催となった。

トレイルの良さに合わせ、天候にも恵まれ、当日参加約80名を含め、約300名の参加者があった。(事前申込み者はHA-L 49名, HA-S 91名, DA 46名, HB 16名, DB 12名, N 3名, グループ3チーム)

会場の作手開発センターは村の中心にあり、役場、JAなど村の機能がここに集中されている。300名位の参加者には広過ぎないホールが更衣室として用意されていた。

HA-L 7,600m 15ポスト

HA-S 6,000m 12ポスト

DA 6,000m 12ポスト

HA-SとDAのポストはかなり近い所にセットされ、同等のレベルのコースであった。

速報からの順位は次の通り(ほぼ最終状態と思われる)

HA-L	①井上 直丈(名大OC)	50:05
	②瀬口 洋治(OLC ルーパー)	52:29
	③安斉 秀樹(東北大OLC)	55:40
HA-S	①平井 均(静岡OLC)	34:28
	②小林 哲(静大OLC)	38:36
	③松澤 俊行(東北大OLC)	42:11
DA	①金田 取子(静大OLC)	47:19
	②鈴木夕紀子(静岡OLC)	53:43
	③渡辺 乃英(つるまいOLC)	54:28

私はHA-Lにエントリー、目標タイムを距離から70分に設定して走り出した。全般的には順調に推移したような気がしたが、他の人に比べレック間タイムが30秒ほど遅く、自信を持った走りが不足していると感じた。私の所要タイムは70:11で、わずかに目標に及ばなかったが、目標設定そのものが甘く、トップに大きく差を付けられてしまった。

参加リポートもこの大会でちょうど1周年になりました。今後も東海地方の大会などの様子できるだけ楽しくお伝えしたいと思います。また今大会の地図「龜山城跡」は、三河OLC作成の「鬼久保」と国道301号線を挟んで隣接しています。セットで使っていただくとベストなんです。残念ながら「鬼久保」の方が好評で使いきってしまいました。リメイクまでお待ち下さい。

三河OLC 小野 盛光

平成4年度 鹿沼 オリエンテーリング大会

●1992年12月6日

●栃木県鹿沼市・宇都宮市

お隣の小野さんが「参加リポート1周年」とのこと。その1年間、私にはオリエンテーリング参加記録が無い。編集部の▲さんから、「前回はいつですか」と聞かれて、「昨年チェコの世界選手権のIOF/プレス親睦レース以来」であることを思い出した。この大会の要項を本誌に綴り込んだことに、主催者の鹿沼OLCの駒場さんから丁寧なお礼の手紙をいただき、急きょエントリーして見た。(9月には、長野県の元木さんから同様の手紙、そしてお招きをいただいたが、本誌編集の真っ最中で残念ながら参加できなかった)。

前夜、その▲さんはじめ編集部の数人で、栃木県内の某所に宿泊。夕食時には今流行りの「ナベ」をつつきながら、話題は「O-JAPAN」の今後。建設的な提案もでしたが、もっと多数の方々のご意見やアイデアをお伺いして、より良い編集・発行を続けたいと思います。

9時30分に会場着。「栃木県厚生年金休暇センター」は広い駐車場を持ち、日光方面の紅葉の時季を終わったこともあり道路は空いており、車での参加者が多かったようだ。東京OLCクラブ、多摩OLなどからの、特に中高齢のいつもの顔ぶれが目立つ。

気軽に、当日でも「ぶらり」と参加できるようにとの配慮からか、珍しいマスターマップ方式。ちなみに▲さんはマスターマップ方式の大会は初めてとのことであった。

地図を見ると、作区範囲の60~70%が黄色(田・畑)と民家等の敷地。中央部の狭い林(白とグリーンのモザイク状)をつないでのランニングコース。しかし、初心者やファミリーには絶好の場所で、スタート/ゴールが会場内で同一場所というのも大変結構。

私は例によってカメラを持って、走っては止まってるシャッターチャンス狙い。時々、グループのこども達の相手をしたりで、久しぶりのコースは楽しかった。

若いクラスの優勝者は、H21A・丸山浩史、D21A・木植早生、そしてH35Aがアブリエ・ラムジのみなさん。このラムジさんは豪州はブーから2週間ほどの休暇を取っての来日。「あなたはフィルム(1980年、第1回環太平洋選手権時に現地3選手と私が選ばれて撮影された30分物の16mm映画)で見たことがある」と言われてしばし話をする。オリエンテーリングをやらない奥さんが気になるため、主催者や参加者のみなさんに失礼ではあったが、表彰途中を抜け出して駅まで送りながら帰途についた。

編集責任者 田口 肇

久松台小学校PTAの集い オリエンテーリング大会



福山オリエンテーリングクラブ

堀江 康博

今回は、特に準備面で流れを述べてみたい。8月末にPTA役員会の席上でOLについての説明を行ない、計画決定されたのは9月に入ってからであった。運営に当たっての条件として、

- ①グループ（家族単位）で参加する。
- ②3クラスを設ける。
- ③地元の史跡めぐりを取り入れる。
- ④次の行事（午後1時～ウルトラクイズ）に間に合うよう全員をゴールさせる。

その他運営については一任する。必要なものについては協力できるとのことであった。

市の行政図と「いとしき故郷」鎌田一先生著の郷土誌が届いて2～3回の読書と地図での確認作業・現地調査（主に道と特徴物…石碑）を2日間行なった。

参加者数の報告を待ちながら、コースを練って、ルート時間を測定して歩き、区間毎のタイムマップもできた。

一方、実行委員会（PTA）も、広報活動と準備を進めていた。PRの方法は、

- ①学校のプリントで家庭に流す。
- ②町内・学校内にポスター掲示（児童も色塗りを手伝った）。
- ③公民館にも申込書を用意。
- ④町内会へ回覧板で流す。
- ⑤学校の電話連絡網で児童の全家庭に呼び掛け。

と、まことに充実していた。申込みが100組を越えた時点で、3コース1時間隔スタートに決定。ポストについては、誘導ポスト（交通量の多い道路横断）2ヶ所と最終ポストを除いて独自ポストとした（全32P）。各コース40分（41～43分）とし、5割増しの1時間で半数が、2倍の1時間30分で全員がゴールできると判断した。

地図は、B4版 単色コピー
縮尺1:7,000 コース印刷済み
… 役員の大瀧口さんの大変な努力で立派な地図ができた。

- 準備として、
- ①警察へ大会開催のための道路使用許可申請
 - ②史跡紹介のミニガイド作成
 - ③史跡紹介の写真を貼ったパネル作成

十分活用できなかったが、校長先生の目にとまり学校で利用していただけることとなった。

- ④用具もスタートチャイマー、ゴールプリンターを県OL協会に借り、本格的に備えた。
- ⑤役割配置も、スムーズに運営できるよう各ポジション毎に人員を割振りした。シュミレーションを行ない、各役割の内容説明を行なった。
[これにより、ポストセッティングとトラブル対応に私が動ける体制はでき上がった。]

⑥チーム名入りの参加者リストを学校の教室などに掲示した。クラス分け・ゼッケン番号・チーム編成などの情報が児童家庭に流れ、話題となり雰囲気作りになっていた。（先生談）

大会当日は、OLの後ウルトラクイズを午後1時から計画し、その間をドッチボールでつないでいました。昼食も、「おとうさんの「カレーライス」」「おかあさんの「うどん」」を準備。ジュース販売も合わせて行なうというサービスぶり。とても美味しく、よく売れていました。

当日は、OLC吉備路の吉岡さんに急遽お手伝いをいただき、全般のチェック、アドバイスをお願いでき、特に目立ったトラブルもなく順調に終わることができました。

表彰は、手作りの可愛い綺麗な賞状であり、チーム名のベストネーミング賞…参加者が投票、があったりと趣向を凝らした大会でした。

□

- 総じて、学校でのOL大会は、
- ①学校の全面的な協力が得られる。
計画段階から校長先生をはじめ学校側スタッフが参画している。
 - ②役員・組織がしっかりできており、役割分担も徹底される。
 - ③会場周辺（テライン）の協力が得られ易い。
 - ④大会を盛り上げる企画が可能。
PRが隅々まで行きわたる。
アフターOLまで準備できる。
などなど十分に練れた企画ができる。

今回もPTAの役員の方々是非常に熱心であり、計画から大会運営まで前向きにどんどん手伝っていただけだし、盛り上げのアイデアから実践まで立派であった。個人名は敢えて記載していないが、相当の時間を割いていただいたし負担も掛けた。私としては、楽しい期間であった。また一つ地域に溶け込めたこと。たくさんの知人ができたこと。OL普及になったこと。地域の史跡を見直せたことなどなど。この行事のアンケートの結果は近々まとめられるそうで楽しみである。

後日談として、「OL大会以降、肥満気味の主人が散歩を始めた」など、反響は意外な面でも現れているようだ。一緒に大会を盛り上げていただいた運営者・参加者・地元の人々に感謝いたします。

親子楽しく 町内探訪

福山の久松台小
PTAが
ふれあいOL

久松台学区で十八日、久松台小学校PTA主催の親子ふれあいオリエンテーリングが行われた。参加した親子は秋晴れの下、手をつないで町内探訪を楽しんだ。

お父さんにもっとPTA行事に参加してもらおう——と企画。近藤翼実行委員長を中心に、企画、準備などお父さんたちが休日を利用して行った。

オリエンテーリングには同小の児童、父母ら百五十組、約六百人が参加。児童らは地図を手に、町内の神社、常夜灯、地蔵など十二のチェックポイントを一時間程度で回り、「お父さんこっちの方が近道なんじゃ」「あんな所にもお地蔵さんがあるよ」などと話しながら、すがすがしい汗を流した。

昼食は、お父さんの作ったビーフカレー。前日から約二十人が五百食分を準備し、戻って来た親子らは、一緒に舌鼓を打っていた。

[10月20日付 山陽新聞より]

東日本大会の速報について

● 山崎 正治

東日本大会で、速報が自分で測ったタイムと大幅に違うことを申告しましたが、申告タイムにミスがあったりして訂正されませんでした。

77秒長いとして、再三調査をお願いしましたが、実は長いのは17秒でした。訂正してお詫び申し上げます。

77秒の大誤差があると吹聴したことについても訂正しなければならないと考えます。

また、+17秒は小差ですが裏付けがあります。これらについて紙上をお借りして説明申し上げます。

なお、この記事は大会の計時の正確さのバラツキについての事例をご参考に供するもので、成績の順位について主張するものではありません。1位の人のタイムも真値より長くなっている可能性があるからです。やがて発行される成績表を、誤差を含むことを理解した上で受け入れたいと思います。

1. タイムについて

速報タイム 40'29" (2位、1位と10秒差)

自己測定タイム 40'12"

調査申告タイム 39'12"-α (申告ミスでした)

(αは時計停止が遅れた時間で0~2秒) 時計を始動させた時刻の記録ミスで自己測定を1分短く申告しました。

(3分前のブザーで時計を始動してからスタート枠に入り、4分前とメモしたものです)

2. コースの終わりの方の状況

⑤まで3990m, 34'43"。⑥の近くで財間氏に逢う。氏がポストを発見して先行し私が追う形になりました。

⑤~⑥ 360m 2'48" 息切れ、歩き50(複)歩。

⑥~(g) 500m 2'41"

計 4850m 40'12" (時計のメモリーは 43'12.50") 9:43 + 40'12" = 10:23'12" (私のゴール時刻)

3. ゴール付近の状況

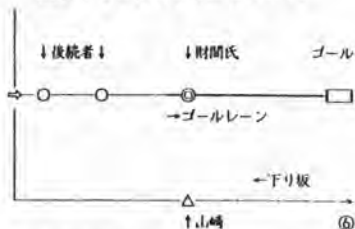
校庭の横の坂道に出ると前方に財間氏が見えました。校庭に入るまでに前の2人を追い越したようで、ゴール・レーン

に入るときは単独トップでした。そのとき、氏の対面を私が下っていて、その差は100mくらいでしょう。

ゴール・タイマーを押すのを見てから1、2歩先で停って時計を止めました。

ミルクをもらってから、その場にしばらくいましたが続いてゴールする人は無かったようです。

図解すると次のようになります。



数字を当てはめると

$$9:29 + 53'39" + A - 9:43 = 40'12"$$

(自己測定タイム)

$$53'39" = \text{財間氏のタイム}$$

$$9:29 = \text{財間氏のスタート時刻 (H65)}$$

$$9:43 = \text{私のスタート時刻 (H70)}$$

Aは私が財間氏に引き離された時間で、33秒です。私の速度に対応すると思います。

記録紙を財間氏に続く2人までで切るでしょうから、私の10:23'12"が次の記録紙切片の先頭にあって、続いて次の人のタイム10:23'29"があると思います。

速報掲示板の辺りでは、タイムが長いとの疑義の声があがっていました。

私はラップを知るためメモリー30で測っています。ゴールでは公式タイムより1秒ほど長いことが多いのですが、時には公式タイムの方が長いこと(最長は39秒)もありました。これはゴールタイマーの時差によるもので、全員が同じ条件だと思っています。

今回の誤差は、全員が同じ条件ではなく、ゴール順の入れ代わりによるもので、+があれば同値の-もある組合せの集合でしょう。私が+群に入ったのが不運なので、もしも-群に入っていたとしたら、人知れず喜んでいたのかも知れません。

以上は、ゴールタイマーが正確であることが前提です。ゴールタイマーが始めは正時で次第に進むなら別の問題が起こります(スタートタイマーは正時でした)。遅くスタートする人には+のハン

「行」と「様」

● 吉良 清一

私の場合、昔(10年以上前かな?)はすべて返信用には「行」を書いていました。相手側が「様」に書き直したり、そのままだったり、さまざまですが、相手側のパターンがある程度理解できるようになると、「様」に書き直してくれる会社に対しては、差し出すときから「行」を記入していません。

[OL大会を運営している

大会関係者の場合]

プログラムに、「あて名の敬称は省略させていただきました」という一項目をつけ加えることによって、失礼にならないのではないのでしょうか。

「行」と「様」

● 窪田 宏明

結論としては「様」と書くことにする。「行」は日本文化の奥ゆかしさの伝統と習慣の名残りで、昔、1:1で文通していた頃は相手を立て、自分をへり下り、受け取った側も「行」を「様」に書き換えることをいとわず、そこには「心」が通じており、それでよかったのですが、数十名~数百名を越すビジネスレターの「行」を、いちいち「様」に訂正していたのではたまりません。

既にOL大会の会場で受け付ける返信用封筒の宛て先には「様」と書くようになっていて、お互いの了解も得られていて、事務能率からも合理的になっています。従って少なくともOLに関する事務処理用文書には、オリエンティアの了解の下に、返信用封筒の宛て先は「様」と書かせていただくことには如何でしょうか。

ちなみに私の勤めている会社では、社内メールの宛て先はすべて略号で、かつ「様」や「殿」の代りに△を書くことにしています。経理部長宛てはケチ△(ケ

チが付いて不利です。(40秒で17秒として、1時間で25秒、HEなら始~終で46秒)

最後に、77秒の大差と騒いだことについて重ねてお詫び申し上げます。

イリのケ、長またはチーフのチ)となつて何となく感じが出ます。この△は殿(DONO)のDをギリシャ文字のデルタ(アルファベットの4番目)の大文字で表したもので、Dよりも安定感があり、△の先端が行く先(宛て先)を示しているとも見ることができます。

OL関係の文書の宛て先にも使っているとは思いますが、コンセンサスを得るのに郵便局の人も巻き込みそうで、ちょっと無理かな。でもスタートマークと同じで、何となくOLらしい宛て先記号でしょう。

「様」の故事来歴を云々して目くじらをたてることなく、これを単なる宛て先を示す、あまり抵抗なく受け入れられる記号として考えればよいと思います。

□

PS.

△を使えば、O—JAPAN 編集部△となつて、「御中」の代りにもなります。

OLの普及 について

● 大町 宏志

11月号誌上で、村越真さんが「ショート・インカレの意義について」と題する文章を寄せられていた。村越氏の個人的感じによると、ショートOLはリレーOLに近いということが述べられていたと思う。

私自身、OLの普及について何をしてきたかといいますが、PCレポート提出とか、個人のOL地図を贈ることくらいしかやったことがありません。

しかし、これが本当にOLを知らない一般の人に対する普及になるかどうか疑問に思います。

そこで、私の新たな提案ですが、OLのリレーの地図を、OL個人参加者にも入手しやすくなる配慮をお願いしたいと思います。一般の人でもリレーの地図をもらえば個人参加する気になるという私の思いつきは楽観的で短絡的ですか？



今、OLは停滞期？

● WINDS 中村 威

O—JAPANは毎号楽しみにしています。私はOLを大学時代から始め、もう12年続いています。かつては地図調査なども行っていたのですが、今は参加させていただいているだけです。

最近感じるのは、OLはかなりひどい停滞期に入っているのではないかとことです。インカレや全日本などそれなりに盛り上がっているのですが、何か勢いが感じられないのです。先日、東京OLCのペアOL大会に参加したのですが全部で100名位の参加でした。私が学生の頃はもっと大きな大会であったと記憶しているのですが。東日本のスタートリストを見ても、大会として成立しそうなものはH21A、B～Eだけではないでしょうか。D21Bに至っては4人で、本当に驚きました。

グレンデが近郊から無くなったのに比例して参加者も減った気がします。

それとJOAが今どうなっているのかの情報をお願いします。なぜAPOCの成績表が来ないのでしょうか。参加者の見えない所で何か決められている…今の政治状況と似て、参加者のシラケ、盛り上がりへのなさが責められないような気がします。 =後略=

ぜいたくな願望？

最近ではラインの所在の関係が自宅よりの距離が遠くなり、まごまごしているスタートの時間に間に合わなくなる場合が時々ある。こんどの朝日大会の時も、運営側の用意した始発のバスの時間でも絶対に駄目、と言っても前日に宿泊する宿も取れず、これは棄権するほかは無かったが、運営者の所に相談の電話をしたところ、なんと一時間ほど早く始発のバスを用意するとのこと……

実はこのことを含めて言いたいことを一言。

エントリー時に、交通手段は？との欄にJR、バス利用と記入して申し込んだ

のに、始発のバスを利用して間に合わないスタート時間を指定した時点で既に運営者側の無神経な、又ただスタートリストを作製すれば良いというだけの作業の様子がありありと感じたのは私だけでしょか。

今回は早々と対処できたので無事に終わったが、これからの大会主催者の方々に、できれば遠方の参加者が当日JR等の交通機関を利用しての参加はスタート時間の配慮をお願いしたいと思います。当然、参加者も予め申込みの際に申告等の意思表示をすることは必要ですが……

運営側のたいへん複雑多忙な作業の数を十分に承知の上のたわごととお聞き流しのほどを……

【天邪鬼】

公認大会の 参加資格

● 大井 和之

大会シーズンに入りました。今秋も公認大会が3つあり、開催県の関係者の方は御苦勞様です。しかし、公認大会の参加資格の改善はいつになされる気配がありません。

昨年の突然の改正直後から、いろいろと問題点が指摘されていますが、誰の目にも明白なのは、“公認大会H21Aの参加資格に、「前年度全日本大会H21A規定時間内」を加えるべきだ」という点でしょう。要するに、現行規定は数少ない春の公認大会に、不自然にも非常に重要性を与えているということです。例えば、昨年度の私はその前の全日本(富士愛鷹)でH21A 5位という成績をとりながら、O—CUPを運営したため、秋の大会では(東・西日本大会)E権どころかH21Aの出場権もなく、東大OLK*の推薦印で出場しました。幸い私は、朝日大会H21E17位→全日本(岐阜)H21E規定内となり、今年度のH21A出場権は確保しましたが、私の同期は今年就職のため春の大会にエントリーせず、よってAPOCに出なかったために、秋からH21Bに落ちた者が何人かいます。

選手権であるEクラスに厳しい制限が

Q—FORUM

あるのはともかく、オリエンテーリングを楽しむ人(特に学生OB)が出るH21Aに、まるで公認大会への全参加を義務づけるような規定は不適当です。↗

《得られる出場権》

	全日本	A・春の公認	B・秋の公認	C・全日本	D・翌春の公認
H21E 20位以内	(A), B	H21E B, C, D	H21E C, D	H21E	
規定内	} (A), B	H21A B, C, D	H21A C, D	H21A	
規定外(出場)					C
H21A 5位以内	} 何ものなし	B, D	H21E D	H21E	
規定内					B, C, D
H21B 10位以内	何ものなし	B, C, D	H21A C, D	H21A	

(A) は成績表が出ていないので実質的に無理。

埼玉大会のプログラムでわかったように、現行規定が推薦の異常な多さを引き起こしています。

□

最終的には、全日本に比重をかけるのをやめて、春秋2シーズン制にし、資格をとれば2シーズン後まで有効という形にするしかないと思います。



* 東大OLKは東京都協会加盟の認定クラブです。もちろん東大以外の女子大生も構成員です。数年前、JOLCより公認大会には認定クラブ名で参加するよう通達があったので、現在でも公認大会には「東大OLK」で出場しています。何年か前、本誌上でたしか橋先生が、自分の大学の名前で出ないのはおかしいと言っておられましたが、そういう事情がありますので御理解ください。

幼稚園の授業に オリエンテーリング

福山OLCの佐藤会長さんから「広島のリンビニ幼稚園で、公開保育研究会の活動テーマにオリエンテーリングがとり入れられているので、見学に行ってみて」との情報をいただき、早速、10月24日に伺ってみました。

園長先生にお会いしてお話を聞いたところ、「体育の先生の発案によるもので、今回が初めてではありませんが、オリエンテーリングといえる程のものではありません……」とご謙遜でしたが、ともかく見学させていただきました。

ポストは手作りの花のシールで6群あり、各々に、ひらがな一字づつ書かれているもの。地図は園内の略図で、主な建物や遊具には、「とりごや」とか「すべりだい」等の固有名詞が記入されており、ポスト位置の○の中には群を示す数字が書いてある。また、チェックカードは1~6群に各4欄が設けられており、ポストを見つけたら、該当する群の欄に書き込んでいき、終りの合図で各教室にもどり、みんなと相談しながら文字を並べ替えると動物の名前になるという仕組み。最初に教室で先生から説明を聞いた後、4~5人のグループにわかれて競技(ゲーム)開始となりましたが、私には



制限時間25分のスコアOLのように思えました。中には張り切り過ぎて仲間とはぐれてしまう子もいましたが、みんな元気よく園内を走り回っている風景は見ていて本当にほほえましいものでした。

活動のわらいは、「オリエンテーリングのあそびを通して、楽しくあそぶためにはどのようなことが大切かを体験する」というところにあったようですが、

いつまでも続けてほしいものです。そして、この子たちが将来、優秀なオリエンティアとなってくれることを願いながら園をあとにしました。

ちなみに、当日オリエンテーリングを楽しんだ園児は年長児105名、全ポスト数は18でした。

広島OLC・三好正夫

□

パーマネントコース

リポ〜と



□1992年9月14日(月)
長野県 No. 19 ~窪 92-7~
「車聖井沢A」
【距離】 10 km
【ポスト数】 10本 O-MAP

●マップ取扱所:

軽井沢駅構内観光案内所

●マスターマップ: 上記案内所にある。すぐにマークが消えるので掲示板にはマスターを入れてないとのこと。A, B共通マップにフリーハンドで赤丸を入れたマスターマップを前日に確認しておいた。翌日、富田氏にいただいたコピーと照合するため再度行ってみると、昨日とは別の女性が5万分の1の地図にA, B, C3コースのポストをフリーハンドで記入したコピーをくれた。「オリエンテーリング・パーマネントコース位置図」と書かれたそのコピーはすりきれていて、全く役に立たない。赤丸の入ったマスターマップを要求して見せてもらうこと。

●マップ: A, B共通。1986年4~6月調査, 1/15,000のO-MAP, 一部100円。

●ポスト: ミニポストでかなり錆が出ているものもあるが, 10本とも健在。

●コース: スタートは「軽井沢」駅で, 信越本線の南側の別荘地をまわり, ゴールは中軽井沢駅。もちろん逆回りもOK。ほとんど平坦で易しいコース。ポスト⑥~⑦の道は立派な専用の舗装道路になっている。

このコースは観光スポットの塩沢湖を通らないが, 時間があればポスト④からテニス民宿村の塩沢にあるその小さな湖に寄るとよい。天気恵まれれば浅間山の眺めがよい(当日は曇りで残念)。ここには各種のレジャー設備, ペイネ美術館, 近くに軽井沢高原文庫があり, それぞれに楽しめる筈。

□1992年9月14日(月)
長野県 No. 21 ~窪 92-8~
「車聖井沢C」
【距離】 8 km
【ポスト数】 8本 O-MAP

●マップ取扱所: 信濃追分駅前, 松葉タクシー営業所および遠山商店。

●マスターマップ: 信濃追分駅出口(北側のみ)を出て右手に掲示板とマップ, ポスト位置は黒インクで明瞭。

●マップ: 1/20,000のO-マップ。100円, 調査期間 1985.6~9

●ポスト: ミニポスト。錆が出ているがポスト③以外は健在。ポスト③は倒れているので, その場所に行かないと, 離れた所からは見えない。

●コース: 信越本線の北側にある追分の宿を中心に回る易しいコース。

「信濃追分」の駅前は軽井沢や中軽井沢のそれを見てきた後ではあまりにも何も無いのに驚く。食堂も無いから, 時間帯によっては弁当を用意しておいた方がよい。ポスト⑦のすぐ近くの浅間神社の裏手に「追分宿資料館」があり, 宿場関係の資料や, 堀辰雄ら追分ゆかりの作家の作品・原稿等が展示してある。月曜と祝日の翌日は休館。また, ポスト⑥と⑦の間に堀辰雄の旧居があり, 資料の一部が一般に公開されている。



□1992年9月15日(火)
長野県 No. 20 ~窪 92-9~
「車聖井沢B」 O-MAP

「軽井沢」駅から旧軽井沢へ行くのにポスト⑧, ⑨, ⑦を経由して遠回りをした。ポスト⑧は有名な雲場池の南端にあり, ポスト⑦は鹿島の森にある。僅かに離れているだけで旧軽井沢の喧騒が嘘のように静かである。旧軽から長野・群馬県境の旧碓氷峠に登った。見晴し台からの眺めは一度見ておく価値はある。ロマン派ならば付近に散在する文学碑を訪ね, 異人をしてサンセット・ポイントと言わしめたその景観に感動しては如何。旧軽銀座ではシーズン終りの店じまいのため, 大幅にディスカウントをやっており, ショッピングを楽しんだ。ポスト⑦から離山の北側を西へ星野温泉入口に抜けて中軽井沢までにある残りのポストは次の機会に訪れたい。

以上の軽井沢のコースは富田氏から情報をいただいた(O-JAPAN 1989.8.73号にリポート)。軽井沢A, B, C3コース(A, Bは同じマップ, 従ってマップは2枚)とも次の所で取り扱っている。

【軽井沢駅構内観光案内所】

【中軽井沢駅構内観光案内所】

〒389-01 軽井沢町中軽井沢

TEL 0267-45-6050

【信濃追分駅前, 松葉タクシー営業所 および 遠山商店】



軽井沢へ初めて行く人には, PCのみではつまらない。ガイドブックでよく調べて, PCの近くにある観光スポットに寄り道しておみると, 一層楽しい。



リポーター:

〒191 東京都日野市多摩平 5-2-43

窪田 宏明



□1992年11月2日(月)
長野県 No.17 ~木 92-12~
「乗鞍安高原」
[距離] 10km
[ポスト数] 10本 O-MAP

JR「松本」駅下車。同駅の⑦番線から松本電鉄に乗り「新島島」駅前のバス乗場③番から「乗鞍山頂」行き又は「国民休暇村」行きに乗り「番所(ほんご)組合前」下車、約50分。「番所組合前」の次は「番所」だが、「番所」で降りると300m引き返すことになる。バス停「番所組合前」の斜め前に「安曇村大野川区事務所」がある。

MAPはその「事務所」の受付にあり、マスターの掲示板は庭の隅にある。掲示板には屋根があるので、マスターは日にも焼けず、雨水のしみも入らず鮮明である。1/20,000のO-MAPだが、調査が昭和55年と古いせいか精度は92%ぐらい。

コースは山道70%、舗装道路30%で、標高差は150mぐらい。

②のあたりはリゾート開発のため様相が一変している。30分かけて②を探したが行方不明。後日、「安曇村教委」に電話をして②のことを聞いたところ、「②の辺りは土地造成のため、どこかへ捨てられたものと思われます。①③④の位置を変更する計画を立てているので、その時に新しく②を立てる予定です。来年の夏には完成する予定です」という返事であったので、来年の夏まで②は存在しないから実在のポストは9本である。このコースの難解ポストは③と④であろう。

観光地のため道の整備は良好。ほとんどのポストは限りなく黄色に近い褐色のため、秋は枯れ葉の中で見にくい。途中には「善五郎の滝」「牛留池」「一の瀬園地」「猪谷スキー場」があり、④~⑤の間では正面に白銀の乗鞍連峰が輝き(11月)、結構変化が楽しめるコースである。「大野川区事務所」は役場の出張所なので、土曜・日曜・祝日は休み。バスは11月11日から翌年の雪解け時まで運休となる。また8月23日を境にして時刻が大幅に変わるようだから、必ず事前にバス営

業所に電話をして時刻を確認すること。このコースのMAPは余分にあるのでお分けできます。

(大野川区事務所 ☎0263-93-2111
安曇村教育委員会 ☎0263-94-2301
松本電鉄バス新島島営業所
☎0263-92-2511)

□1992年11月8日(日)
群馬県 No.95 ~木 92-13~
「上小川高山」
[距離] 9km
[ポスト数] 10本 O-MAP

JR上越線「沼田」駅下車。バス「中山本宿」行きで終点下車。そこから徒歩約90分で「北毛青年の家」に着く。ただしこの交通機関はMAPの表紙から写したにすぎないので、行く前に必ず「北毛青年の家」に電話をして確認すること。私は車で行った。

MAPとマスターは「青年の家」の事務所にある。ここは月曜日が休み。しかし、念のため電話をして確認してから出かける方がよい。庭にマスターの掲示板があるが、ほとんど読めない。

MAPは1/10,000のO-MAPで、調査が1988年のため精度は98%。②と④のあたりの舗装道路が点線のままになっているが、別に支障はない。

コースは山道50%、牧草地20%、林の緑30%で、標高差は100m。

ポストは小さめだが、最近塗り直したらしくて赤が鮮やかで心地よし。⑦は道から10mほど入っているので注意。⑨への細い道の入口は急降下になり、滑りやすいので注意。初級者向きと書いてあるとおり平易で難解ポストもない。

12年ぶり2度目の挑戦であったが、昔のMAPは手書きのガリ版刷りで、ポストは9本であった。⑧が増設され、ポスト記号は全て変更されている。

どこのコースも同様だが、土の道がやたらと舗装されて味気なくなっている。(北毛青年の家 ☎0279-63-2004)

リポーター：
〒185 東京都国分寺市泉町 3-5-6-104

木佐木輝雄

□1992年11月22日(日)
岐阜県 No.2 ~水 92-2~
「関ヶ原古戦場」
[距離] 10km
[ポスト数] 12本 O-MAP

●スタート地点：「陣馬野公園」(駅から700m。)

JR「関ヶ原」駅を出ると右手側に案内板があります。しかし、マスターマップはついていない。マップはJR「関ヶ原」駅で取り扱っている(無料)が、駅にもマスターマップは置いていないとのこと。とりあえず、スタート地点の陣馬野公園に向かう。公園内に案内板がありマスターマップも判読可能。なお、公園近くにある歴史民俗資料館でもマップを取り扱っている。スタートし、第①ポストに向かう途中、住宅地を抜け川を渡ると(建設中の橋を渡る)、新しい道を作っている(もちろん地図には無い)ので地形および高圧線をよく見てポストに向かう。

地図作製の調査期間が1983年10月~84年6月ということで、地図上に無い道が多少あるが、小学校や幼稚園など建物や特徴物を目安に順番に回ることができ。ただし、③番はポスト全体が草に覆われて大変見づらい。また、⑦番近くには東海自然歩道ビジターセンターがあり休憩するには絶好の場所(お茶をご馳走になりました)。

所要時間は、家族5人連れ(妻・小4・小2、幼稚園児と私)で4時間かかり子供たちはかなり疲れた様子で(親も結構疲れました)、帰りの車の中では眠り込んでしまいました。コース的には、ルート上の道も東海自然歩道などを利用してあり整備されていました。またグレンデが関ヶ原古戦場跡ということでいろいろな史跡も見られて大変おもしろく、子供たちも歴史に興味を持ち、しばらく戦国武将の話が続きました。

(関ヶ原町教育委員会 ☎05544-2-1288)

リポーター：
〒509-01 各務原市輪沼朝日町5-248

水野 博司

情報あれこれ

□埼玉県OL協会よりお知らせ

平成4年も12月に入りもうわずかとなりました。本年も当協会内のOL行事・パーマメントコースに、数多くご参加ご利用いただき、且つ練習会等のゲレンデ利用申請にご協力いただきありがとうございます。

10月には公認大会を開催し、1200余名のご参加をいただき、ありがとうございました。一部参加資格の問題で混乱をまねきご迷惑をおかけいたしました。

平成5年以降も、皆様にご参加いただける大会等を計画しておりますので、よろしく願いたします。

- (1) 1月24日(日) 第12回朝霞市郷土OL大会
 (2) 31日(日) 埼玉県民OL大会
 [竹沢PC新地区改訂記念OL大会]
 (3) 2月13日(土) 上尾の森ナイトOL大会
 (第32回上尾市民大会)

詳細につきましては、OLカレンダーまたは当協会までご連絡ください。(2)の竹沢パーマメントコースは国道254号線バイパス工事のため、長い間休止しておりましたが、地図・コース共大幅に変更し、1月31日に再開の記念大会を実施いたします。ご期待ください!!

パーマメントコースの現況について(39コース)

◆「竹沢」コースは上記のとおり明年1月31日に再開の予定です。(ポストの埋込みも終了する予定です。)

◆「秩父」コースは7月1日以降、武甲山が滑落したため12月現在も閉鎖中です。秩父市よりの解除命令が出ていないため、協会としても遵守しておりますのでご協力願いたします。近いうちに秩父市と相談し武甲山にかからないショートコースを計画しています。決定次第お知らせを載せる予定です。

なお、学連O-MAP「武甲山」も同様閉鎖中です。練習会等で使用しないようお願いいたします。

◆現在「神川」「本庄大久保山」「森林公園」の3コースの地図を書き替え中です。来年度春以降にはニューMAPに替えられると思います。ご期待ください。

以上簡単ですが、埼玉県OL協会より御礼とお知らせを誌上をお借りして替えさせていただきます。

12月4日 文責：埼玉県OL協会総務部

□WOC93 本セレクションレースについてのお知らせ

まだ時期等は決定しておりませんが、現在のところ2本のレースを行なう予定です。

先日、本セレクションレースの候補地の一つとして、「望郷の森(第13回インカレ個人戦テライン)」を決定しましたのでお知らせします。予備セレクションレースを突破できそうな方で、本セレクションに出場する意志のある方は、今後、本セレクションレース終了まで、「望郷の森」のテラインに立ち入ることを禁止します。

SQUAD

編集者より

◆この一年ご愛読ありがとうございました。不景気が大鍋のどん底を這っていますが、来年は明るい年となりますよう、また、みなさまの、日本の、世界のOL界の発展をお祈りいたします。 <流人>

連絡協だより

□東海地区連絡協だより

11月15日(日)紅葉のきれいな愛知県尾張旭市の森林公園で東海地区クラブカップリレー大会が開催された。結果はクラブAはOLCルーバー(稲葉・竹下・落合)がカップを奪回、クラブD(女子)はつるまいOLC(渡辺乃・山田・古沢久)が連勝した。40才以上のメンバーで構成されるチームの特別表彰は愛知OLC(栗野・小島・加藤)が、三河OLC(清水・小幡・尾和)を振りきって獲得。女性2名+男性1名でクラブAに挑戦した三河ヤングチームは5位に入る検討を見た。また欠席チームが無かったことも特記すべきことである。

11月21日(土)に第4回連絡協議会が開かれた。リレー大会については、連絡協加盟クラブ以外の参加者が少ないので、クラス分けなども含め、対策を考えていくことになった。来春の中日東海ブロック大会は浜松で開催予定で進められている。しかし、また横浜国大などと同じ日になってしまったことは残念である。コントロールカードの印刷コストダウンのため、統一品を作ろうということでサンプル集めを行ってきたが、いまのところ各クラブも手持ちがあり、連絡協製を購入しようという意志が薄いため、当面様子を見ることにした。

文責：三河OLC 小野 盛光

□近畿OL連絡会のご案内

OLシーズンたけなわの今日此の頃ですが、皆様におかれましては益々のご活躍のことと存じます。さて恒例の冬の近畿OL連絡会を、今回はOLCレオがお世話させて頂くこととなりました。多数のご参加をお待ちしております。お手数ですが別紙の返信(封筒下に掲載)を、12月末までにお送り頂たくお願い申し上げます。不参加の場合でも大会日程等できるだけ返信を下さい。また返信用封筒に62円切手を貼付の上宛名を明記して返信とともに送り下さい(議事録送付用)。この封筒の提出が無い場合は、特にお申し出のないかぎり議事録はお送りしませんので宜しくお願いいたします。

12月1日 OLCレオ 愛場 庸雅 記

日時：1月15日(祝) 午後1時より受付
1時30分開会、5時終了予定

場所：阪南荘 地下鉄御堂筋線「昭和町」下車

参加費：会場代 資料代として

1クラブあたり 1,000円
+ (参加人数-1) × 300円

※終了後、懇親会を会場またはその近辺で予定しております。多数ご参加下さいますようお願いいたします(会計別途)。

連絡はこれ以降は行ないませんのでご了承下さい。

◆問い合わせ先：☎0720-41-1045
愛場まで(同番号FAX可)

O-JAPAN 発行人/田口 昭子 * 購読料 年間4月~3月 ¥3,000 * Chief Editor: Hajime Taguchi
〒233 横浜市港南区日野南7-9-5 * (高校生以下) ¥1,800 * Editorial Address:
TEL. 045-891-7004 FAX. 045-891-2500 * '92.10月~'94. 3月 ¥4,500 * 7-9-5, Hino-minami, Kohnan-ku
編集責任者/田口 肇 * 1部あたり頒布価格 ¥250 * Yokohama, 233 Japan